

自然愛・環境問題研究所
総括研究員 浅野 隆彦

日時 〇6-6-1 (木) 10:00~17:00

参加者 小林 昌子(模尾川ダム問題活動者、和泉市議)
和田 加津子(余野川ダム問題活動者)
新保 宏志(伊賀・水と緑の会々員)
畑中 尚(" " 富代表)
新保 満子(社)大阪自然環境保全協会理事)
高田 直俊(" " 会長)
小山 公久(伊賀・水と緑の会 自然文化部責任者)
浅野 隆彦(自然愛・環境問題研究所)

1. 前深瀬川の流氷は平氷状態、凡そ水深30~50cm。

2. 魚としては、カワヨシノボリ、ウグイが視認された。

3. 鳥はカワガラス、アオサギ、チュウダイサギ、ヒヨドリ、サシバが視認、ウグイスの声が多かった。

4. 平均500m²位の山林皆伐が目につくだけで3ヶ所。

※ 検討中であるのに、サッサと環境破壊を先行させている。

5. ダム建設用プラント施設の用地を奥深瀬に整備し
終っている。鋼製橋2基共。

※ ダム本体工事と一体的のもので、先行させるべき理由がない。

6. 水没予定地に付替道路工事で出た残土を仮置している。

〈※ 仮置であるから環境被害はないと思っているのか。

7. 周辺の山林は手入れされておらず、病的状態。水土保持は危機的である。

8. 「地すべり地」と大きな着板。

〔※ 堆砂量が特に多い不安定地質地帯なのだ！〕

観察 9. オオサンショウウオ用のコンクリート製巣穴？発見。

※ オオサンショウウオは溪畔林の根元がえぐられた砂土質の天然洞穴が最高なのだ。

水質 水生々物による簡易判定→ コガタシマトビケラが多く、「Ⅱ」：少しきたない水に該当した。調査-小山、判定-浅野

パックテスト結果の問題点→ COD 8 ppm.

※ 後に『木津川流域 いっせい水環境調査報告書』（木津流域リフレッシュ事業推進協議会）2001年・2002年。を見れば、前深瀬川（小河内橋）、川上川（種生橋）、城川（さくら保育園横）が、CODが非常に高い場所と指摘されていた。一体全体、これはどうした事だ。伊賀・水と緑の会はこの原因を探る為、これから調査に入る。

ハイキングで得た感想としては、『豊かな生物の宝庫もダムがどうして壊さなければならぬのだ？』に集約されていたと思う。

B. もう一つの水質調査＜身近かな自然観察＞川と遊ぼう・川の生き物を調べよう。（NPO法人 伊賀・水と緑の会 06-8-21）から引用して述べる。

調査場所 前深瀬川 流量観測所地点。

1. 採取場所の水深 30cm

指標生物としては、カワニナやコオニヤンマが多く、ⅠとⅡ両方に生息するヒゲナガカワトビケラ（瀬虫）が非常に多かった。調査-森本。

2. 採取場所の水深 40cm

指標生物としては、カワニナやスジエビが多く、ⅠとⅡ両方に生息するヒゲナガカワトビケラ（瀬虫）が非常に多かった。調査-小山。以上から判定を浅野が行なった。

水質 水生々物による簡易判定 → 「Ⅱ: 少しきたない水」

パックテスト結果による問題点 → COD 8 ppm.

〔この意見書に於ては、水質調査表・集計表は省略した。〕

- ∴ 以上の結果から、前深瀬川は水質が悪化して来ている事が明らかになった。この事がいつから初まったのか、今のところ、筆者の手元にはデータがない為に断定できないが、「ダム事業実施」に密接に関わっているとの推測をしている。汚染源の追跡と共に、「ダム関連工事」や「産廃」等の監視が最低限必要であろう。オオサンショウウオを含む「生物の宝庫」が、「ダム事業」の流れの中で、既に相当のダメージを受けている事を直視しなければならない。

B. オオサンショウウオの虐待。

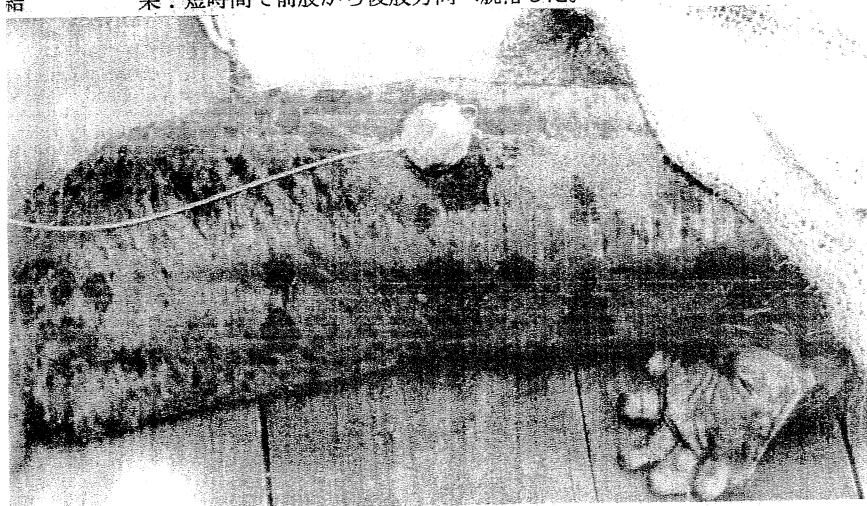
「川上ダム オオサンショウウオ調査保全検討委員会」が進めて来た事は、本来の「保全」ではなく、「ダム実施を最優先に、オオサンショウウオを追い出す」事であった。学者、専門家達は初めから「生態系の保全の為に、ダム計画をどう見直すべきか」という観点で議論した事は一度もない。〔第1回～第9回議事録〕人工收容所に関じ込め、観察、人工繁殖、上流域への移転試験強行（上流域の生物環境調査欠落のまゝ、50数尾を移転させ追跡調査の結果、半数以下しか再確認できなかった。恐らく、未確認の大半は過密戦争により死亡した可能性が高い。見つかった個体の中でも体重が減少していた者も多いと言う。）をして、大方の顰蹙（ひんしゃく）を買ったりしている。これらの殆んどが、オオサンショウウオへの虐待であり、基本的に『川上ダムが全ての生命を脅やかす張本人である』ことを示している。

次頁に象徴的にそのイメージを持つ写真を掲げる。「同検討委員会」のオオサンショウウオへのラジオ・ビーコン取付試験である。

写真 3枚共「川上ダム オオサンショウウオ調査保全検討委員会」資料



取り付け方法2) : 胴体前肢部に衣服を着せ発信器を固定する(かなりきつめに装着)。
結 果: 短時間で前肢から後肢方向へ脱落した。



取り付け方法3) : 尾部周縁部から出来るだけ中心部側に発信器を釣り糸で縫いつけ固定した。
結 果: 麻酔なしで取り付けることが出来た。



取り付け方法3) : 縫いつけた発信器の反対側を釣り糸が皮膚に食い込まないように革製のあて布をつけた(発信器は裏側にある)。

写真6-2-4(3) 取り付け試験の状況

※ 自分達は、個体に傷つけ、苦しめておきながら、学術的な「川上川と前深瀬川の個体間」に於けるDNA相違確認の為に組織採取を拒否した。